

反米的風評の鳩山氏論文

与党や政府は日々の「現実」に  
対処せざるをえない。対処の在り  
方に異論があれば、これを牽制し  
てよりまともなものへと修正を迫  
り、時に廃棄に追い込むことが野  
党の役割である。

しかし現実の対処への異論はと  
かく理想論に傾きがちである。理  
想は容易に実現できないことは知  
っているが、繰り返し主張する  
うちにそれがあたかもリアリズム  
であるかのように思い込まされて  
しまうことがよくある。

私は左翼全盛時代に青春を送っ  
た人間だから骨身にしみて知って  
いるのだが、日本の平和が守られ  
ているのは憲法第9条の存在のゆ  
えだ、日米安全保障条約は日本を  
戦争に巻き込む危険な存在だとい  
った幻想を多くの日本人は信じて  
いた。この「護憲平和」という倒  
錯の論理が再三再四主張されてい  
る間に、それが現実であるかのよ  
うな「共同幻想」に人々は捉えら  
れてしまったのである。

ついに与党となる民主党とはこ  
種の幻想をナイーブに信じてい

強大国支配になぜ気づかない

る人々の多い政治集団なのであ  
う。次期の総理たる鳩山由紀夫氏  
の論文が衆院選直前にニューヨ  
ーク・タイムズ(電子版)に掲載さ  
れ、日本の新政権は反米的だとい  
う評価がアメリカで生まれ始めて  
いるもようである。電子版を開い  
てわかったことだが、これは鳩山  
氏が『Voice』誌9月号に寄  
せた「私の政治哲学」と題する特  
別寄稿論文の抄訳である。

米中の「狭間」ではない

私はすでに同論文を読んでい  
る。鳩山氏とはやはりこういう外  
交感覚を持つ指導者なのかと深い  
憂慮を抱かされ、こんなものがア  
メリカの指導者の目に触れなけれ  
ばいいがなと思わされてもいた。  
民主党の圧勝が予想され次期総理  
の確たる人物が、発足して間もな  
いオバマ政権下のアメリカに向け  
てこのような論文を発信するのは  
非常識である。同論文が反米的だ

正論



拓殖大学学長  
渡辺 利夫

というのは言い過ぎだが、唯一の  
同盟国アメリカの軍事的庇護の下  
で平和を享受している日本の指導  
者のこの発言に、嫌悪感を抱かさ  
れたアメリカの政治家や官僚が少  
なくなかったことは十分に想像さ  
れる。同論文の問題点を2つに絞  
る。

第一に、アメリカの世界におけ  
る影響力は低下していく一方、中  
国の経済的、軍事的拡大がめざま  
しいと述べ、「覇権国家でありつ  
づけよう」と奮闘するアメリカと、  
覇権国家たらんと企図する中国の

狭間で、日本は、いかにして政治  
的経済的自立を維持し、国益を守  
っていくのか、これが日本の重  
大な外交課題だという。

日本がアメリカと中国の「狭  
間」にあるというのは誤認であ  
る。アメリカは日本の同盟国であ  
り、中国はそうではない。ひとた  
び急迫の事態に陥ればアメリカは  
日本を防衛する責務を負う。他  
方、集団的自衛権を行使できない  
という政府解釈に縛られている日  
本はアメリカを防衛する義務を負  
わず、その意味で日米同盟は片務

的である。民主党のマニフェスト  
がうたう「緊密対等な」日米関  
係を築くには、集団的自衛権行使  
を認めて同盟を双務的なものとする  
日本の「護歩」がまず第一歩で  
ある。非核三原則の法制化や普天  
間基地移転の再検討などで相手国  
に迫るのは筋違いである。同盟に  
揺らぎがあれば中国による東シナ  
海制海権掌握が間もないという想  
像力をどうして持てないのか。

第二は、東アジア共同体の構築  
が熱く語られていることであ  
る。「東アジア地域を、わが国が  
生きていく基本的な生活空間と捉  
えて、この地域に安定した経済協  
力と安全保障の枠組みを創る努力  
をつづけなければならない」とい  
う。私の大学院生ならこんな脳天  
理念なき共同体の危険性

共同体とはFTA(自由貿易協  
定)やEPA(経済連携協定)と  
いった機能的制度を超えた理念の  
共有体である。鳩山氏はEU(欧  
州連合)を想定して域内統合や紛  
争処理を共同体に託そうと考えて  
いるのだが、東アジアはEUでは

ない。東アジアは理念を共有して  
いない。政治制度は区々であり、  
共通の安全保障システムを擁して  
おらず、発展段階を著しく異にする  
国々から構成されている。EU  
との決定的な違いである。統合の  
基盤のない地域に共同体という傘  
をかぶせれば、その非対称性のゆ  
えに強大国による弱小国の支配が  
一層容易になる。その程度の背理  
になぜ気がつかないのか。

鳩山氏の政治哲学はクレーンホ  
フ・カレルギーの思想に基礎をお  
くと先の論文には記されている。  
しかし、EUの創設理念となった  
カレルギー卿の思想が東アジアで  
も適用可能だと考えるのはあまり  
にもひどい事実誤認ではないか。  
東アジアにおいて行動の自由を確  
保し、みずからの存在を確実に証  
す決定的に重要な二国関係が日米  
同盟である。

言葉は麗しいが内実の不鮮明  
な、その分、明確な戦略を持つ大  
国の行動の自由が大きい東アジア  
共同体という霧のような怪物に日  
本が飲み込まれることはどうして  
も避けねばならないのである。  
(わたなべ としお)